

使用前に必ず本使用説明書を読み、記載事項を守って使用してください。

動物用医薬品

2019年5月改訂

承認指令書番号	22動薬第4826号
販売開始	平成9年8月

貯法	2～5℃
----	------

動物用生物学的製剤

劇薬 要指示医薬品 指定医薬品

BURSA-M生ワクチン「NP」

(鶏伝染性ファブリキウス嚢病生ワクチン(ひな用)(シード))

【本質の説明又は製造方法】

このワクチンは、弱毒鶏伝染性ファブリキウス嚢病ウイルス2512G-87株を発育鶏卵で増殖させて得た鶏胚乳剤(ウイルス液)に安定剤と保存剤を加えて凍結乾燥したものです。

【成分及び分量】

乾燥ワクチン1バイアル(1,000羽分)中

成分		分量
主剤	弱毒伝染性ファブリキウス嚢病ウイルス2512 G-87株(シード)	10 ^{7.0} TCID ₅₀ 以上
安定剤	精製白糖	50mg
	ラクトアルブミン水解物	50mg
	L-グルタミン酸-カリウム	0.8mg
	リン酸二水素カリウム	0.4mg
	リン酸二カリウム	0.9mg
保存剤	ゲンタマイシン硫酸塩	12μg(力価)

【効能又は効果】

鶏伝染性ファブリキウス嚢病の予防

【用法及び用量】

1日齢～70日齢の鶏に、ワクチンを飲水に混合し、1羽当たり1羽分になるように飲ませる。

【使用上の注意】

(基本的事項)

1. 守らなければならないこと

(一般的注意)

- ・本剤は、要指示医薬品であるので獣医師等の処方箋・指示により使用すること。
- ・本剤は、効能・効果において定められた目的にのみ使用すること。
- ・本剤は、定められた用法・用量を厳守すること。

(使用者に対する注意)

- ・作業後は、石けん等で手をよく洗うこと。

(鶏に関する注意)

- ・本剤の投与前には健康状態について検査し、重大な異常(重篤な疾病)を認めた場合は投与しないこと。
- ・鶏が、次のいずれかに該当すると認められる場合は、健康状態及び体質等を考慮し、投与の適否の判断を慎重に行うこと。
 - ・元気消失、食欲不振、発熱、下痢、重度の皮膚疾患など臨床異常が認められるもの。
 - ・疾病の治療を継続中のもの又は治癒後間がないもの。
 - ・明らかな栄養障害があるもの。
 - ・他のワクチン投与や移動等によりストレスを受けているもの。

(取扱い及び廃棄のための注意)

- ・外観又は内容に異常を認めたものは使用しないこと。
- ・使用期限が過ぎたものは使用しないこと。
- ・本剤には他の薬剤(ワクチン)を加えて使用しないこと。
- ・小児の手の届かないところに保管すること。
- ・直射日光又は加温は品質に影響を与えるので、避けること。
- ・ワクチンの調製は清浄な部屋で行い、衣服や手指の消毒等衛生管理に十分注意すること。
- ・ワクチン調製には清潔な用具を使用し、雑菌等を混入させないこと。
- ・使い残りのワクチン及び使用済みの容器は、消毒又は滅菌後に地方公共団体条例等に従い処分、若しくは感染性廃棄物として処分すること。

2. 使用に際して気を付けること

(使用者に対する注意)

本ワクチン成分の特徴

微生物名	抗原		アジュバント	
	人獣共通感染症の当否	微生物の生・死	有無	種類
鶏伝染性ファブリキウス嚢病ウイルス	否	生	無	・

本ワクチン株は、人に対する病原性はない。

- ・乾燥ワクチン瓶内は、真空になっており破裂をしておそれがあるので、強い衝撃を与えないこと。
- ・開封時にアルミキャップの切断面で手指を切るおそれがあるので注意すること。

(鶏に関する注意)

- ・移行抗体価の高い個体では、ワクチン効果が抑制されることがあるので投与時期を考慮すること。
- ・本剤の投与後、温度管理に十分注意し、鶏に与えるストレスの軽減に努めること。
- ・ワクチンウイルスの他鶏群への拡散を防止するため、免疫群は隔離すること。
- ・本剤投与前後24時間以内は、投薬や消毒剤の使用を避けること。
- ・本剤と他のワクチンを同時期に投与する場合は、1週間以上の間隔をあけて投与することが望ましい。同時投与は避けること。
- ・副反応が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること。

(取扱いに関する注意)

- ・一度開封したワクチンは速やかに使用すること。使い残りのワクチンは雑菌の混入や効力低下のおそれがあるので、使用しないこと。
- ・使用時よく振り混ぜて均一とすること。
- ・投与に用いる器具は、消毒剤を含まないきれいな冷水で洗浄すること。
- ・飲水用の水は、井戸水、清水等を使用すること。水道水を使用する場合は、煮沸後冷却したもの、汲み置きしたもの、チオ硫酸ナトリウム（ハイポ）を0.01～0.02w/v%の割合、あるいはスキムミルクを0.25w/v%の割合で添加したものを使用すること。
- ・本剤をすべての鶏に均一に投与するために、以下の点に留意すること。
 - ・飲水器は鶏の数に見合った数を用意すること。
 - ・本剤投与前2～3時間は断水すること。
 - ・2～3時間で飲み終える量に調製すること。
 - ・本剤をすべて飲み終えたことを確認してから、通常の飲水に戻すこと。

(専門的事項)

①その他の注意

- ・本剤はシードロットシステムにより製造され、国家検定を受ける必要のないワクチンであるため、容器又は被包に「国家検定合格」と表示されていない。

【有効期間】

製造後3年3か月間（最終有効年月は外箱及びラベルに表示）

【包装】

1,000羽分×10本、3,000羽分×10本

【製品情報お問い合わせ先】

株式会社 科学飼料研究所 動薬部
〒370-1202 群馬県高崎市宮原町3-3
TEL 027-347-3223
FAX 027-347-4577

製造販売元



株式会社 科学飼料研究所
東京都中央区八丁堀三丁目3番5号

獣医師、薬剤師等の医薬関係者は、本剤による副作用などによると疑われる疾病、障害若しくは死亡の発生又は本剤の使用によるものと疑われる感染症の発症に関する事項を知った場合において、保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するために必要があると認めるときは、上記【製品情報お問い合わせ先】に連絡するとともに、農林水産省動物医薬品検査所（<http://www.maff.go.jp/nval/iyakutou/fukusayo/sousa/index.html>）にも報告をお願いします。